視聴覚教材の効果的な使い方

水野　晴光

はじめに

本来、外国語教育はさまざまな価値や目的－知的訓練、教育的価値、文学鑑賞など－を持っているが、この目標を実現するためには外国語の運用力(performance)の獲得が前提となる。そこでコミュニケーションに必要な4技能と文化的知識の習熟を効果的に達成するために視聴覚教材・機器をどのように使ったらよいかという観点から述べてみたい。

2．視聴覚教材・機器の長所と短所

現在、外国語教育で最も広く活用されている視聴覚教材・機器（メディア）はテープレコーダーやビデオ、スライド映写機、ＯＨＰなどであるが、これらの機器はいずれも拡大性と提示の反復機能を持っている。すなわち画像や映像を拡大して映写したり、音声を拡大したりするばかりでなく、肉眼では見ることのできないミクロの世界も惑星の表面をも色つきでスクリーンの上にはっきりと映し出すことができる。さらに、教師が繰り返して発音したり、説明したりする手間を省き、何度でも同じ発音を反復したり、正確に内容を提示することができる。

この二つの共通した機能以外に、それぞれのメディアに固有な機能がある。すなわち、ＬＬやコンピューター利用のＣＡＩ（Computer Assisted Instruction）学習には「個別学習への適応性」がある。また画像が連続的に動くＶＴＲや映画には「感情性」や「情緒性」があり、膨大な情報を満載するビデオ・ディスクには「分類と検索の瞬時性（頭出し機能）」がある。

さらにスライド、カセットテープ、ビデオテープなどには「教材自作の容易性」などの長所があるといえる。教師はこのようなメディアの特徴をよくわきまえた上で、コミュニケーションにつながる言語活動を展開しなければならない。つぎの表は代表的なメディアの長所と短所を要約したものである。

メディア	長　　所	短　　所
ＶＴＲ	映像の記録・保存が簡便 映像の即時再生が可能 教材の価格がかなり安価	大人数の視聴には不向き (拡大スクリーンが あれば問題なし)
スライド	自作教材が簡単にできる スライドが安価にできる 投影時間の調節が容易 プレイバックが容易 画質が鮮明である	教室を暗くせねばならない フィルム面が汚れ易い 湿気に弱い
ＯＨＰ	明るい教室で投影可能 画像を学習者に対面し たまま提示できる ＴＰを重ねて使用可能 提示に時間を取らない 画面を自由に動かせる	投影機は運搬に不便 拡大が十分できない 色彩が限定される 情報量が限定される (但しこれは長所にもなる)
カセット テープ レコー ダー	再生・録音が簡便 小型になり運搬に便利 機器故障の心配が僅少 テープは安価である	必要な箇所を見つける のが容易でない 映像が利用できない

3．視聴覚教材の使い方

上で述べたように、メディアの中でとりわけ長所の多い教材はビデオである。そこで次にビデオを使う際のテクニックを紹介する。最近、ＢＢＣはビデオを教材の重要な部分に位置づけていろいろなビデオ教材を出している。「ENGLISH TEACHING WITH VIDEO」はビデオを使った指導法を分かりやすく紹介している。

授業でビデオを使う際に是非知っておきたい心得を次にあげる。

（1）無声の画面を見せる

体の動きや顔の表情が十分であれば、音が聞えなくてもある程度会話のやり取りを想像することができるので、場面や登場人物の関係を推定させることにより、学習者の推量をひきだすことができる。

（2）登場人物の考えていることを言わせる

話手が、口で言っていることと別のことを考えている場合、テープを聴いたり、テキストの会話を読んだりしただけでは分からない。しかし、映像があると、表情や動作から話手の心情がわかる。

（3）登場人物の感情を推理させる

ビデオを見せる前に、怒り、驚き、疑問、不賛成などいろいろな感情表現をプロミネンスやイントネーションを変えて練習させておき、登場人物の感情を推理させると、効果的な学習がなされる。

ある場面を二三回見せ、特定の所で画面を静止状態にして、次に登場人物がどんな言動をするかを考えさせる。この方法は、学習者に絶えず刺激を与え、教室の言語活動が活発になる。

（5）場面を描写させる

クラスを半分に分けて、一方にビデオを見せ、他方は画面が見えない状態にしてその場面で何が起こったのか描写させ、画面を見たグループにその描写が正しいかどうかチェックさせることにより、言語活動が促進される。

（6）静止画像を使う

静止画像は何十、何百ものパネルやスライドの役割を果たす。最近は重要な場面の画像をハードコピーにして取り出すこともできるようになった。

（7）話題を選ばせる

テレビ番組の予告編やドキュメンタリーの冒頭を見せてクラスでディスカッションさせて導入に使うことができる。

（8）ロール・プレイをさせる

登場人物の動作や話ぶりをモデルにしてペア・ワークなどでロール・プレイをさせることによりfluency を会得させることができよう。

（9）復習のために通して見せる

15分ぐらいのビデオを通して見たあと、感想や意見を述べさせることも重要な言語活動である。